

# 令和7年度第1回ISO上層委員会報告会

## 第127回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会  
中川 梓

# ISO Council (理事会)

## ◆ ISO理事会とは

- ISOの中心となる統括組織
- 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- 議長：ISO会長または副会長(政策)
- 年3回の会合
- 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

## ◆ 理事会メンバー機関

### グループ1

AFNOR(仏)(2026)  
ANSI (米)(2026)  
BSI(英) (2024)  
DIN(独) (2026)  
JISC(日)(2025)  
SAC(中) (2025)

### グループ2

NEN(オランダ) (2027)  
SCC(カナダ) (2027)  
ABNT(ブラジル) (2025)  
UNI(イタリア) (2025)  
KATS (韓国)(2026)

### グループ3

MoIAT-STR(アラブ首) (2027)  
SABS(南ア)(2027)  
EOS(エジプト)(2025)  
SASO(サウジアラビア) (2026)  
SSC (シンガポール)(2026)

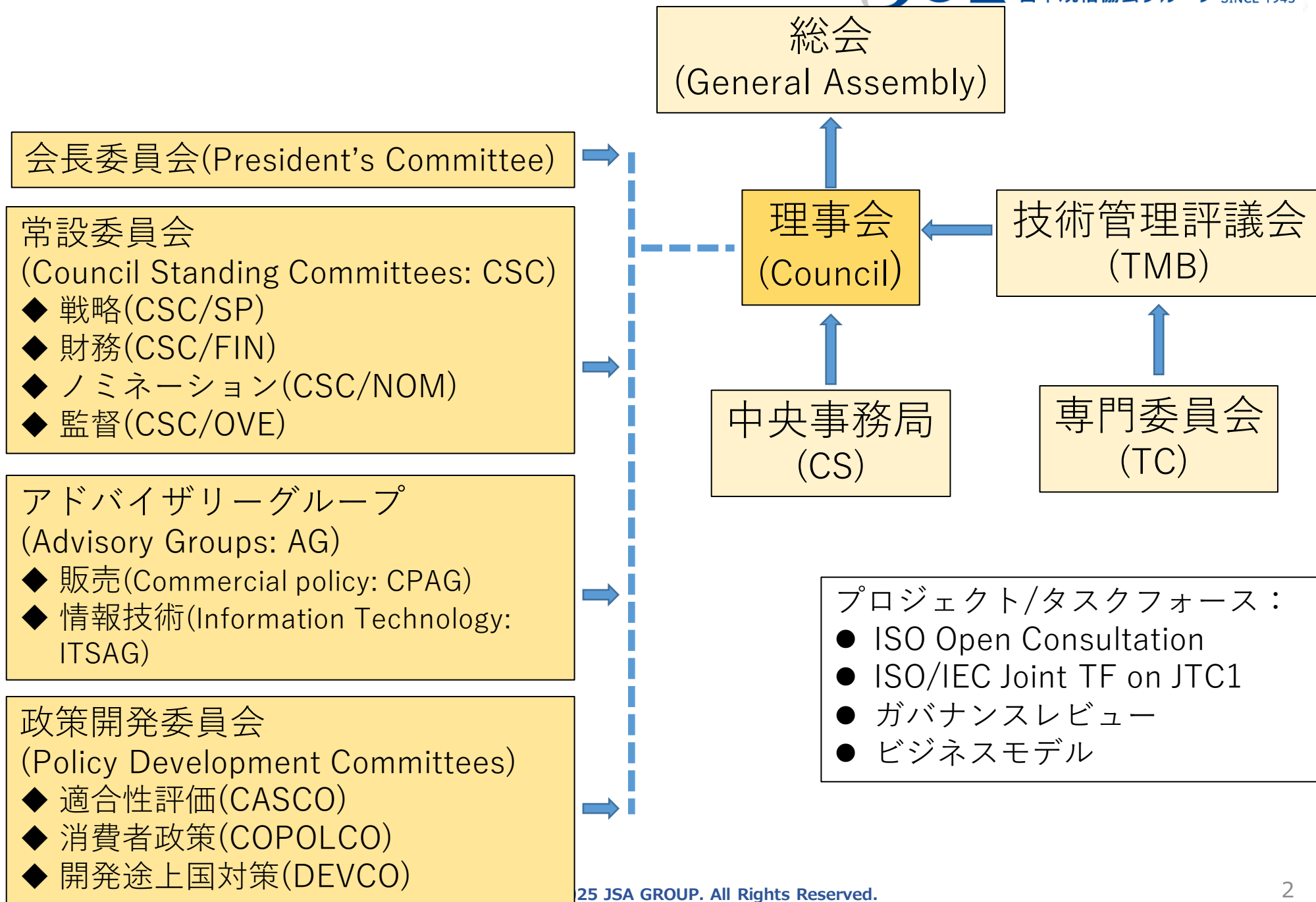
### グループ4

ISS(セルビア) (2027)  
INTECO(コスタリカ) (2025)  
INNORPI(チュニジア)(2026)  
BBSQ(バルマ)(2026)

# ISO Council (理事会)



標準化で、世界をつなげる。  
**JSAGROUP**  
日本規格協会グループ SINCE 1945



# 第127回 ISO理事会 及び 関連会合

2025年2月17日	
09:00-11:30	会長委員会
12:00-13:00	CSC/NOM
13:30-15:30	新任者導入研修
16:00-18:30	CSC/OVE WG
2025年2月18日	
09:00-16:00	CSC/FIN
09:00-11:00	CSC/SPワークショップ
11:00-16:00	CSC/SP
16:30-18:00	CSC/OVE
2025年2月19日	
09:00-12:30	理事会ワークショップ
13:30-18:00	理事会
2025年2月20日	
09:00-11:00	理事会セッション
11:30-17:30	理事会

- 理事会及び関連委員会の会議が、2025年2月17日から20日にかけて、対面で開催された
- 議事を重要/緊急（カテゴリB）とその他の項目（カテゴリA）に区分け。カテゴリAは説明／議論を行わない
- 本資料では、理事会での主な議論、重要事項をご報告する

# 第127回ISO理事会 議題

2	事務総長報告	14.2	COPOLCO議長（2026-2027年）
3	ISO戦略2030の実施 2024年Q4報告 i)実施計画 ii)測定枠組み	14.3	CPAG議長（2026年）
4	サステナビリティに関する進捗報告	15	理事会自己評価結果
5	ISOオープンコンサルテーション進捗報告	16	ビジネスモデル見直し
6	CSC/SPの議論報告（AI）	16.1	進捗報告
7	2025年CS予算見通しの見直し	16.2	短期収入増に関する推奨事項
8	一般基金の管理方針/投資戦略の評価	17	デジタル革命
9	125 & 126回理事会議事録	17.1	AIサミット(WSF)及びISOコンパニオンに関する 会長提案のフォローアップ
10	総会/前回理事会決議のフォローアップ	17.2	IEC/ISO SMART及びOSD 進捗報告
11	理事会傘下のグループの報告	17.3	大規模言語モデル（LLMs）
12	ISO会合へのメンバーシップに関する方針	18	持続可能性戦略的パートナーシップ 進捗報告
13	ガバナンスレビュー	19	ISO/API PSDO協力協定
13.1	進捗報告、理事会-TMBワークショップの フォローアップ	20	欧州司法裁判所判決最新情報
13.2	CSC/OVE推奨事項	21	POCOSA/販売及びロイヤリティ報告の範囲
14	指名	22	その他：IWA49、ISOコンテンツのライセンス
14.1	CASCO議長（2026-2027年）		ワークショップ、セッション

## 我々の展望 Our vision

Making lives easier, safer and better  
生活をより楽に、より安全に、より良く

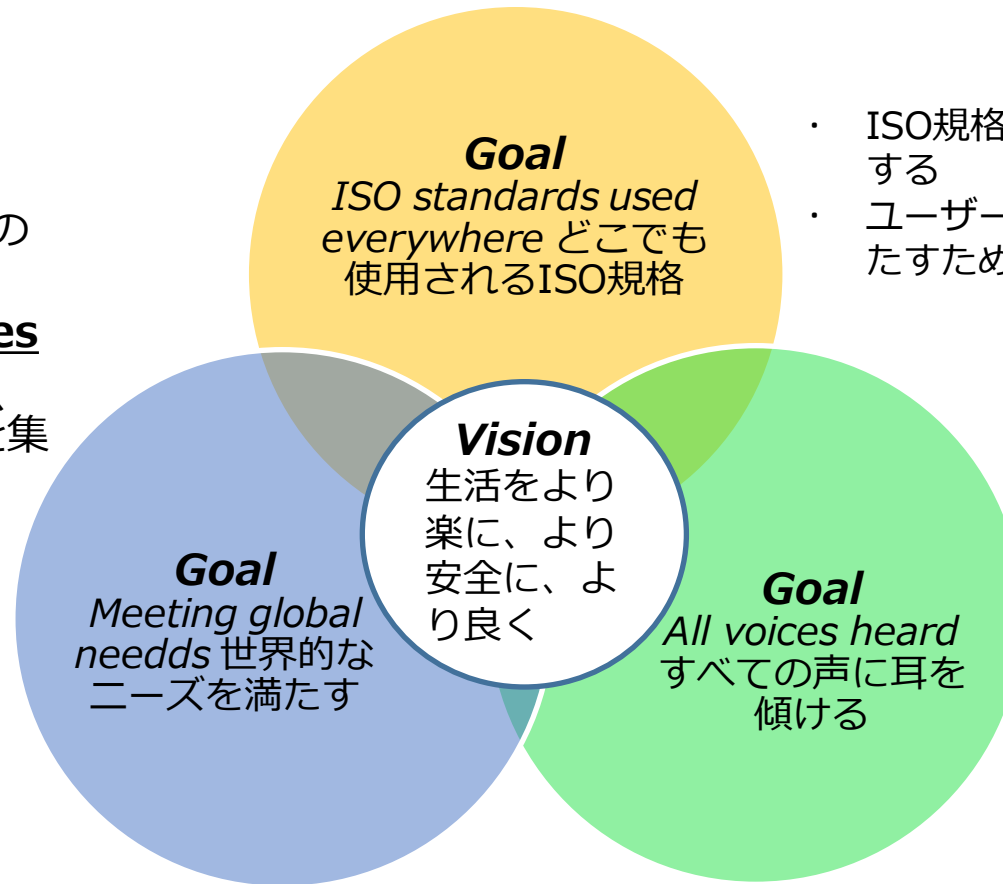
## ◆ 我々のゴール Our goals

展望（Vision）達成のための3つの  
ゴール

## ◆ 我々の優先事項 Our priorities

6つの優先事項。ゴールを達成し、  
影響力を最大にするため、資源を集中

- ・ 市場に必要な時にISO規格を提供する
- ・ 国際標準化の将来の機会を捉える
- ・ ISO規格を通じ環境持続可能性を推進する



- ・ ISO規格の便益を実証する
- ・ ユーザーのニーズを満たすために革新する

- ・ 能力開発を通じてISO会員を強化する
- ・ ISOシステム内の包含性、多様性を向上させる

<https://www.iso.org/publication/PUB100364.html>

[https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md\\_5150.pdf](https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_5150.pdf)

# 議題2～事務総長報告

## <主な報告事項>

### ■ 社会情勢

- 世界経済の見通し
- 気候変動対策にとり重要な時期にある

### ■ ISO戦略2030

#### 戦略実施の成功のカギ：「ガバナンスレビュー」、「ビジネスモデル」、「ISOメンバーの積極的参加」

- 規格及び規格開発の将来
  - オープンコンサルテーション
  - OSD (Online Standard Development)
  - SMART
- 持続可能性
  - ISO気候対策
  - ジェンダーに関するデータ収集：女性、若手が非常に少ない

### ■ 運営状況

- 財務状況、技術活動 (technical activities)など

### ■ 主な活動

- メンバーとのコミュニケーション、地域グループの会合等への参加
- 他の国際組織との関係強化/交流：IEC、ITU、その他

## 議題13～ ガバナンスレビュー

### <これまでの経緯>

- CSC/OVEの下にガバナンスレビューを実施するためにWGを設置（2024年2月）。前ISO会長が特別アドバイザーとして参加
  - 2階層で実施
    - 2024：理事会の多様性や有効性、利害抵触、Quick wins
    - 2025：ISOのガバナンス構造 理事会-TMB-TCの関係、政策開発委員会（CASCO、COPOLCO、DEVCO）

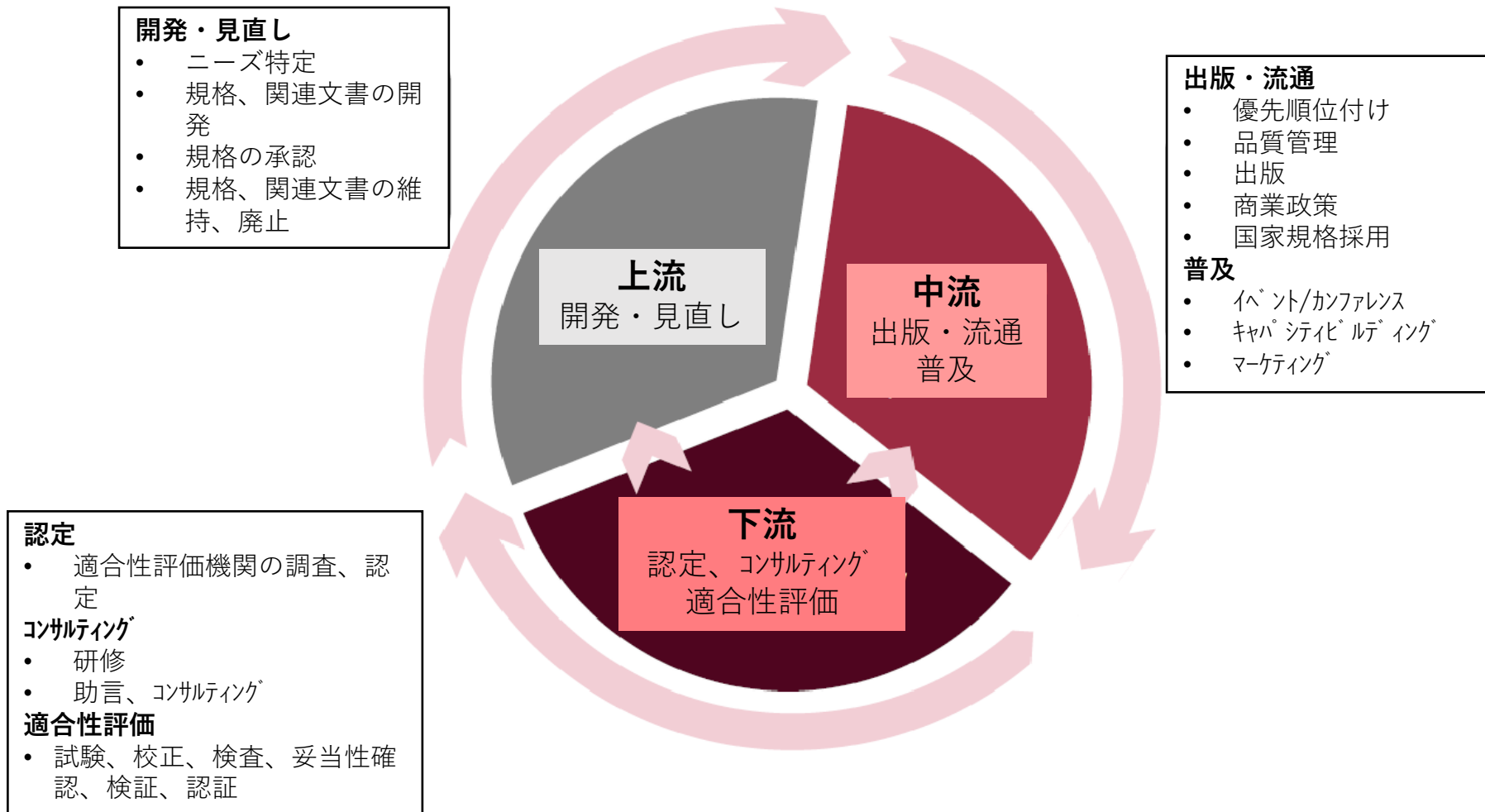
### <主な進捗>

- 多様性を高めることによる理事会のパフォーマンス向上
  - Competency & Diversity matrix
    - 案を作成、パイロット運用実施
    - 理事会メンバーのノミネーション/投票時の参考
    - 特定の議題審議に外部人材を招く必要性の判断の助け
- ガバナンス構造
  - 理事会-TMB-TCの関係：問題点の抽出（TMBの業務のよりよい理解、よりよい協働体制、コミュニケーション、等）、対応検討（2025年）

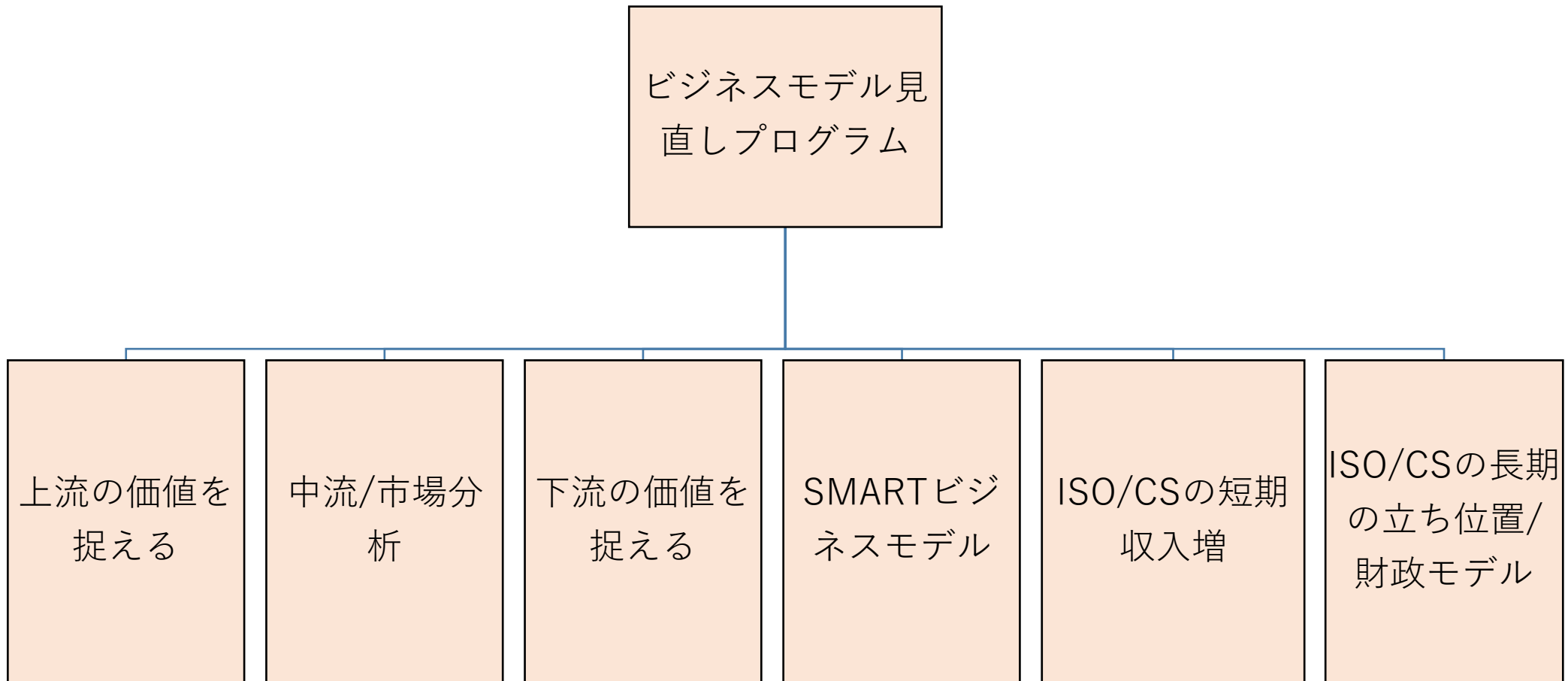


# 議題16.1～ビジネスモデルの見直し

## ISOのバリューチェーン

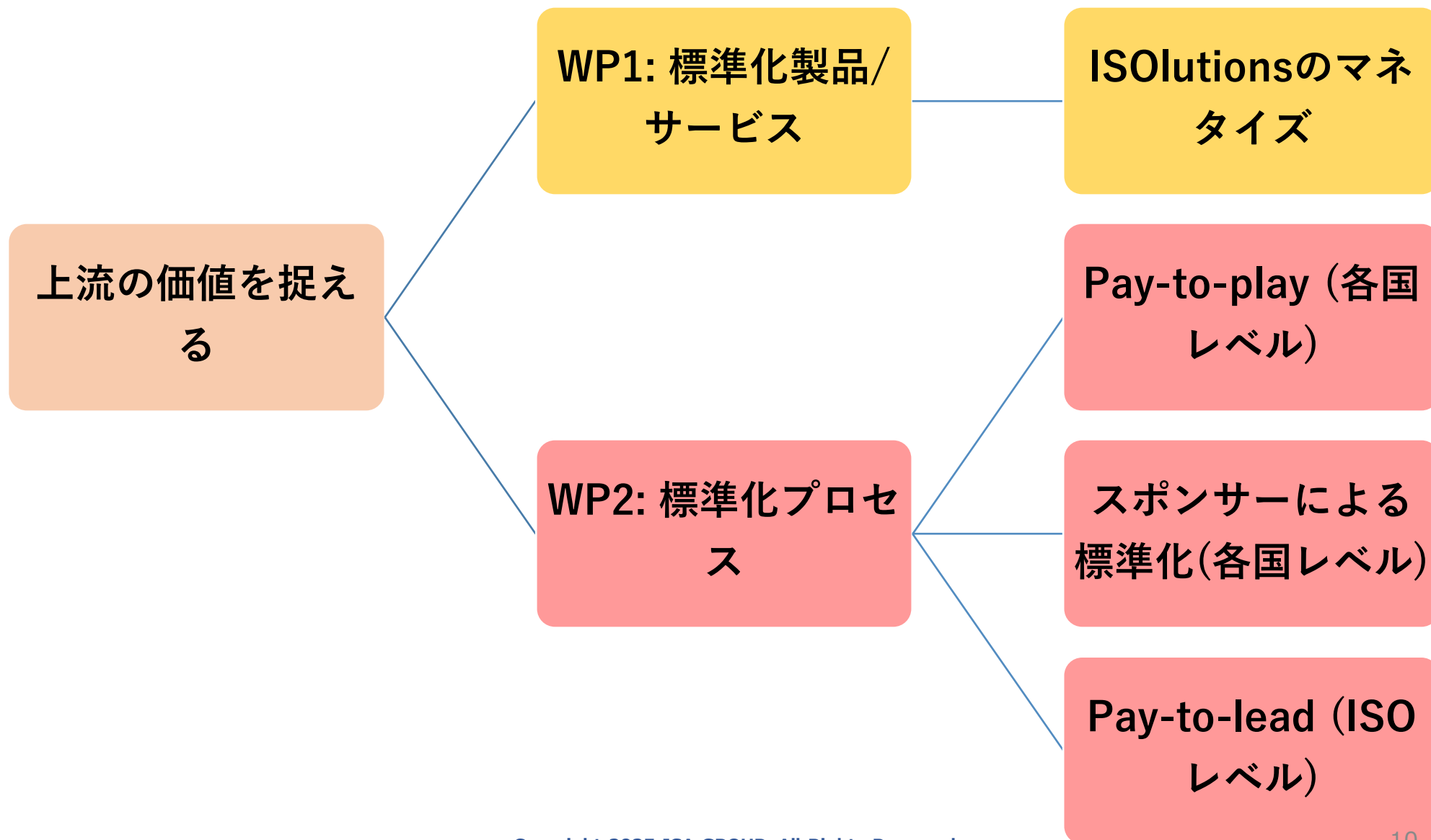


# 議題16.1～ビジネスモデルの見直し



# 議題16.1～ビジネスモデルの見直し

## 上流の価値を捉える



# 議題16.1～ビジネスモデルの見直し

## 上流の価値を捉える

### 参加者からの貢献に基づくモデル

Pay-to-  
participate

会費

Pay-to-lead

スポンサー  
シップ

現物での貢  
献

## 下流の価値を捉える

- コンサルタントによる分析報告: “Opportunity and feasibility study on capturing value from “downstream” activities and actors”
  - 3系統18オプションを特定
  - desirability, feasibility, riskの観点で評価し、ISO/CSに対する優先4オプションと、ISOメンバーに対する10オプションを特定
  
- ISOメンバー向け10オプション
  - メンバーに共有
  - メンバーが実施に関心を示した場合、CSがどのように支援できるかを検討する
  
- ISO/CS向け4オプション
  - CSで経済性などさらに詳細を分析
  - BMTFでビジネスケースを検討

# 下流の18オプション

CS

メンバー

下流の活動者にサービス提供	知財のライセンスング	直接サービス提供
ISOスキーム	区分別料金設定	コンサルティング
認定	ロゴ使用	ISOトレーニングアカデミー
スポンサーシップ	認証に対する証明手数料	原産地証明
パートナーシップ	規格埋め込み製品へのライセンスング	試験/校正サービス
法人会員資格	データ/ソフトウェアソリューションの開発	機能点検
		認証サービス

## 下流の価値を捉える 用途別ライセンスモデル (Differentiated Licensing Model: DLM)

### <背景>

- ビジネスモデル見直しー「下流の価値を捉える」
- ISOコンテンツの用途別ライセンスモデルに関するパイロットプロジェクトを提案
  - 用途によっては大きな価値（利益）を生み出している
  - 一方でISOの規格の価格はページ数で設定。顧客にとっての価値や用途を考慮すべきではないか
  - CPAGにTFを設置し議論

### <パイロットプロジェクト>

- ISOコンテンツの用途別のライセンス契約を導入することを目的
  - 著作権の保護を意図
  - 価値に基づく価格設定へ（「規格を売る」から「規格の使用を売る」へ）
- パイロット実施計画
  - ISO 37001(贈収賄防止マネジメントシステム)
  - 2/28開始、7～8月：パイロット結果の評価、10月理事会に報告


**ISO Store**

Country \*

\* Value required

Save

**Your shopping cart**

<b>ISO 37001</b>		
<input type="text" value="1"/>	English / Paper	CHF 177.00
<b>Subtotal</b>		<b>CHF 177.00</b>

Please keep me up to date of any changes. You can unsubscribe at any time.

**Checkout Summary**

Subtotal	CHF 177.00
Shipping and Handling	CHF 0.00
VAT	CHF 0.00
<b>Total</b>	<b>CHF 177.00</b>

- I agree that any information about this purchase, including my personal details, can be shared with the ISO Member in the country of my billing address and that they may contact me regarding any services they offer.
- I agree that, in addition to information about the standards or collections I chose to "Follow", ISO/CS can e-mail me about any of its other activities.
- I acknowledge and agree to the [Privacy Notice](#). \*

Do you intend to use ISO 37001:2025 to perform certification services?  
 Yes  No

By processing your order, you acknowledge and accept the [Customer Licence Agreement](#).  
 In addition, the [license agreement for ISO 37001:2025](#) applies.



## 議題16.2～ISO/CSの短期収入増

### <背景>

- ◆ ビジネスモデル見直しプログラムの一環で、ISO/CSの短期収入増を検討
- ◆ 2026～2027年に予測される資金難
  - 現状ままのペースでISO戦略実施を進めると、2025年中に積立金を使い切ってしまう
  - 試算では年5800KCHF程度不足

### <主な内容>

- ◆ CSC/FINで検討。9つの推奨事項が提案され、承認
- ◆ 2026年予算の策定に組み込まれるので、ISOメンバーへのコミュニケーション計画を策定する
- ◆ 長期のCSの財務計画の策定を至急行う

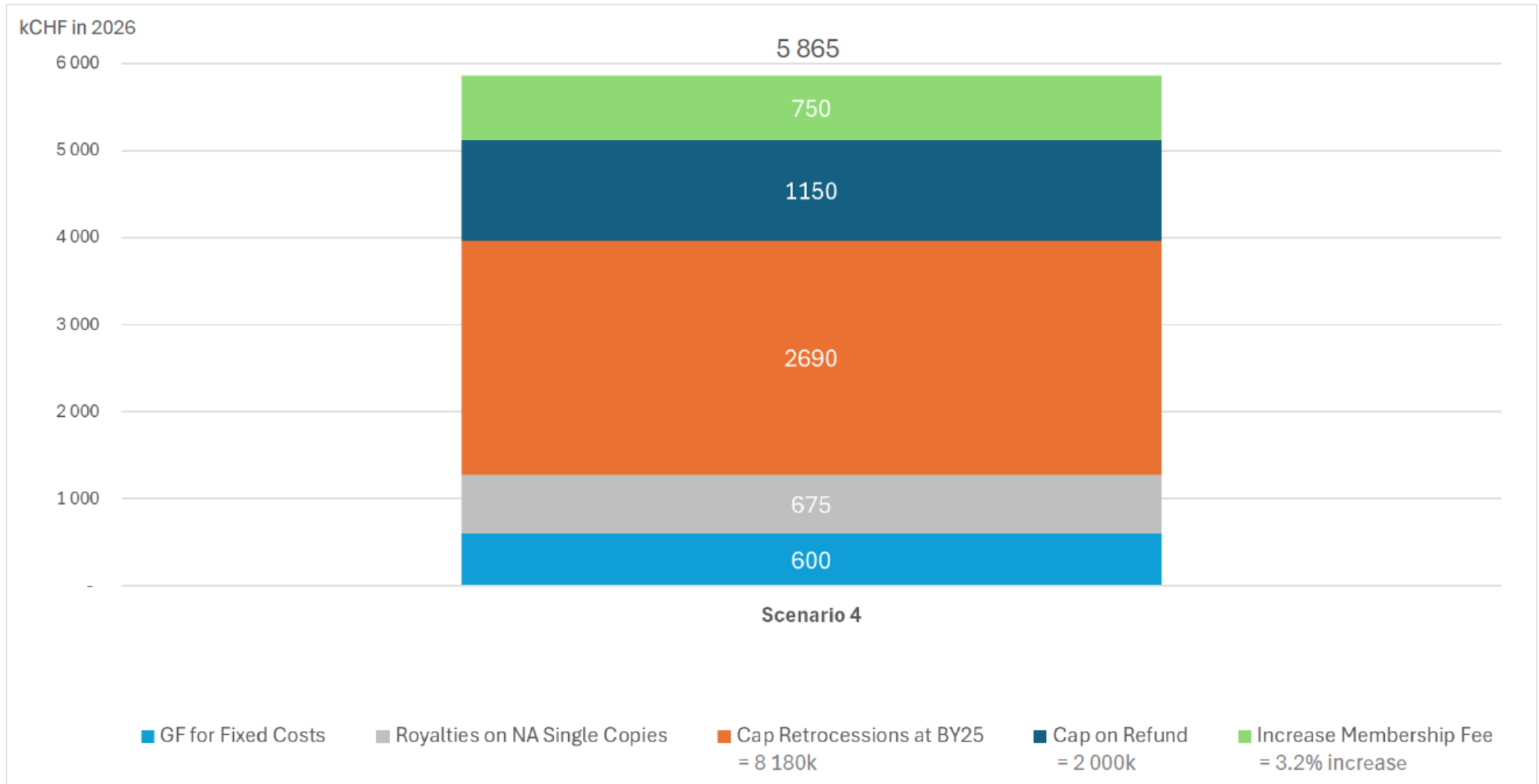
(決議10/2025)

## <CSC/FINの推奨事項>

1. 一般基金(General Fund)の管理方針の調整：最低でもCSの固定費の6ヶ月分をカバーできるようにする
2. 国家採用 (National Adoption) の1部販売につき1CHFのロイヤリティを導入
3. 会員に付与するレトロセッションの絶対額 (次年度分) を毎年決定し、CSC/FINおよびCPAGはウェブストアのオプトアウトメカニズムの段階的廃止を評価する
4. CPAG(販売政策諮問G)は、ISO POCOSA(ISO発行物販売・著作権保護方針)の例外を評価する
5. CSのコスト削減に関する提言を検討する
6. 財務モデルの改訂を検討
7. レトロセッションの総額を8,180KCHF(2025年と同水準)
8. ロイヤリティの払い戻しを2,000KCHF(2025年と同水準)
9. 会費のユニット単価を3.2%増 (2026年)

# 議題16.2～ISO/CSの短期収入増

## Contribution to ISO/CS funding



## 議題17.1～AIサミット（World Standards Forum） / ISO Companion

### <背景>

- ISO会長の提案
  - 世界標準化フォーラム
  - AIを活用したISOコンパニオン
  
- 世界標準化フォーラム→AIサミット
  - 国連のAdvisory Board on AIの“Governing AI for Humanity”に関する最終報告が出され、国際標準化を通じてのAIガバナンスの強化が求められたことを受け、国際標準化フォーラムを国際AI標準化サミットとしての立ち位置に
  - ハイレベルの意思決定者（民間及び行政）の戦略的関与を促進することを目的
    - 2日間のサミットスタイル、350名程度のハイレベルの参加者
    - ISO、IEC、ITUのジョイント、KATS主催で2025年12月2-3日
  
- ISOコンパニオン
  - AIを活用したアシスタントサービス、標準化活動の支援
  - 2025年にパイロット展開を計画

## 議題17.2～IEC/ISO SMART及びOSDの進捗

### ◆ これまでの経緯

- ユースケース作成（現状の解決すべき課題は何か）
- IECとのジョイント
- SMARTとして何を提供するか（deliverables）
- SMART.X：どのように提供（deliver）するか（体制）

### ◆ 進捗

- Deliverables
    - SMART コンテンツ：基本的なアーキテクチャ、コアオントロジーなど
    - SMART 製品/サービス： wizard、API、OSD
  - IECとのジョイント
    - JTF
    - Joint Business Model
- SMATR.X Joint Standing Committee、Delivery Unit設置

## 議題17.2～IEC/ISO SMART及びOSDの進捗

### ◆ SMART 製品/サービス

#### ➤ Wizard

- Wizard readerを2024年12月にリリース
- 2規格で利用可能
- テスト環境で37規格

#### ➤ API

- SMARTコンテンツへのアクセスを提供

### ◆ OSDとの統合

#### ➤ SMART from the Startを可能に

## 議題18～持続可能性に関する戦略的パートナーシップ

### <背景、経緯>

- 持続可能性に関連する団体との戦略的パートナーシップ構築に向け、事務総長が取り組む（2023年2月）
- パートナーシップの目的：国際規格を活用し、個々の能力を超えて影響を増幅するような協力関係を通じて、気候変動対策と持続可能性への取り組みを強化する
- UNDP、IFRS/ISSB、WBCSD、UNFCCC & IPCC、GHG Protocol、COP29 & COP30でパートナーシップを進めているところ

### <主な進捗>

- UNDP
  - SDGに関するMSSをジョイントで開発中。UNDP、OECD、ISOのジョイントの持続可能な金融に関する規格の可能性を模索中
  - サステナビリティ情報開示/管理ハブのパイロットに参加（6か国）（IFRS/ISSB、GRIとも協働）

## 議題18～持続可能性に関する戦略的パートナーシップ

### <主な進捗>

#### ■IFRS/ISSB

- COP29でStandards Pavilionで協力
- SDMHs 及びImpact Management Platformを通じたの協力を継続
- 特定分野（自然、人的資本、SASB基準の強化）での標準化における協働や、ISOのTC/SCへのリエゾン参加の可能性を検討中

SASB : Sustainability Accounting Standards Board（サステナビリティ会計基準審議会）

#### ■ GHGプロトコール（GHGP）

- GHG関連の規格の共同発行を意図した戦略的パートナーシップを構築すべく議論中
- GHGPと組むことにより、気候変動の分野でのISOの地位を確固たるものにし、規格の普及、それに伴う収益増も期待
- 著作権や開発プロセス、作業範囲に関し議論中



# ワークショップ：リスクマネジメント

## 背景

- ◆ ISOは「知的財産の喪失」をリスクとして特定
- ◆ ISOの現状
  - 規制当局や政策策定者のツールとして規格は価値を提供しているとの認識
  - ISOのビジネスモデルは、著作権のマネタイズに基づく
- ◆ 欧州の訴訟など、規格の無料提供を求める圧力の高まり
- ◆ 以下の議論が必要
  - ISOにおける価値提供はどのようなものであるか
  - 「知的財産の喪失」は脅威なのか機会なのか
  - 何をどんなスピードで実施すべきか

## ワークショップ

- ◆ 3つのオプションを議論
  - 1) 著作権の保護を継続し、規格の無償提供と戦う
  - 2) 一部の法域で一部の規格が無料になることを許容し、販売には影響を与えずに無料利用できるようにするためのガイダンス/ツールを提供
  - 3) 規格の無料利用を許容し、新しい収入源を確保し、規格販売に依存しない
- ◆ 決議17/2025
  - 著作権は保護するが、規制への引用も支持しつつける
  - 現在の防御的なアプローチからproactiveなアプローチに移行
    - 特定の規格類に対する著作権が守られるアクセスを提供するためにガイダンス、ルール、ツールを整備

## ご参考～今後の予定

### <理事会>

- 2025年2月 ジュネーブ（スイス）
- 2025年6月 サンホセ（コスタリカ）
- 2025年10月 キガリ（ルワンダ）

### <総会>

- 2025年10月6日-10月10日 キガリ（ルワンダ）
- 2026年9月28日-10月2日 パリ（フランス）
- 2027年9月27日-10月1日 イスタンブール（トルコ）

**ご清聴ありがとうございました**

**お問い合わせ**

一般財団法人日本規格協会  
システム系・国際規格開発ユニット

[kokusai@jsa.or.jp](mailto:kokusai@jsa.or.jp)